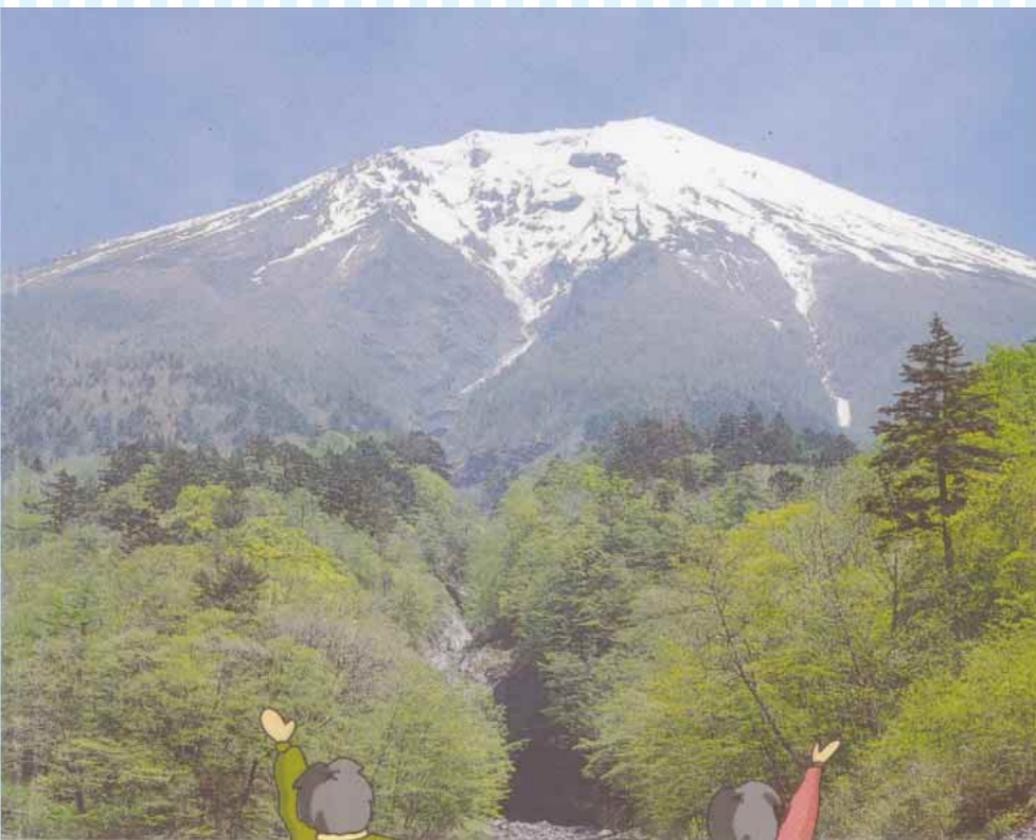


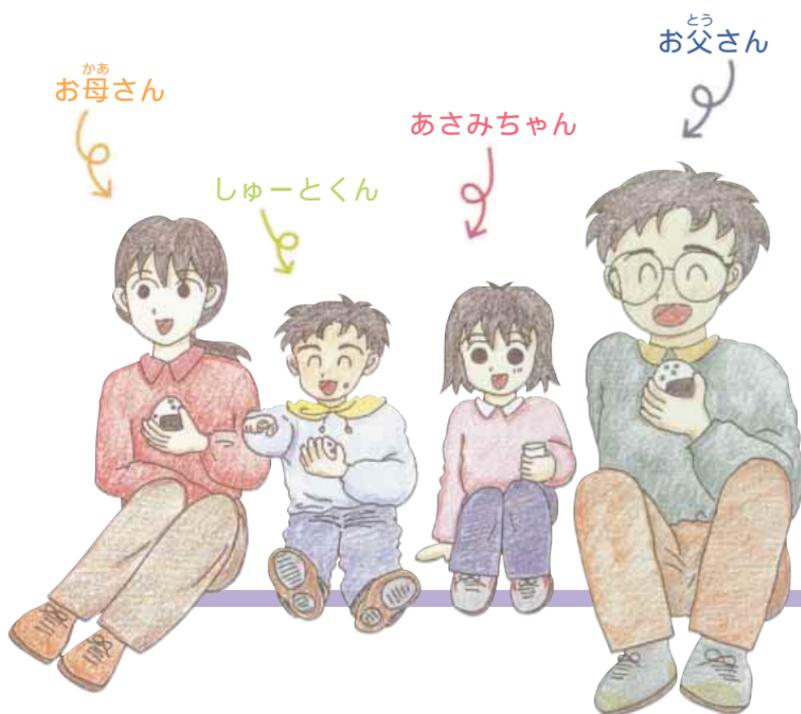
# 富士山を知ろう



# 富士山を知ろう

ふじさん のぼ  
富士山に登る..... 3

富士山をまわる..... 25





# 富士山をのぼる

富士山ルート図



あさみちゃんが家族で富士山にハイキングに行く日です。  
 お父さんは森林を守る仕事をしているので、  
 あさみちゃんと弟のしゅーとくんがどんな質問をしても答えられます。  
 さあ、ちょっと気のすまないようすのお母さんも、いっしょに出発！  
 あさみちゃん一家は、富士山の表富士五合目へでかけます。  
 そこでは、お父さんの案内で宝永火口の遊歩道を散歩する予定です。



お母さん、今日のお弁当はなあに？



今日はおにぎりとフライドチキンよ。



え～っ、サンドイッチかハンバーガーがいいな。



あのね、高山や探検に行くときは、おにぎりが一番いいんだよ。  
 おにぎりは、しっかりご飯がつまっているから、  
 たくさん力がでるんだ。山で食べるとおいしいよ。



今日は歩いたり、登ったりが多いの？



五合目までは、ときどき止まりながら車で行くんだ。  
 そこから富士山の寄生火山といわれている宝永山のまわりをぐるっ  
 と歩いて帰って来るんだよ。  
 このコースの景色は富士山を遠くから見て想像するのは全然ちがう景色なんだ。

寄生火山：火山の山腹や山すそに新しく噴火してできた火山のこと。

くるま ふじさん の はい もり みち りょうがわ  
車が富士山のすそ野に入ると、森が道の両側にひろがっています。  
お父さんは得意そうに説明を始めました。



ここがスギ、ヒノキの林だよ。  
ところどころに、落葉樹の林やブナの林も見えてくるよ。



お父さん、スギやヒノキの林の中は、少し暗いね。  
でも、ときどき見えるブナの林は明るくて、小さな木がたくさんあるのね。



そのとおりだよ。じゃあ、ブナの林で降りてみよう。  
このあたりは標高1,000mくらいで、むかしはもっともっと広くブナの林が続いていたところなんだ。

スギ林の中のようす



落葉樹の林



落葉樹: 秋になると葉が落ちる木  
標高: 海面からの高さ

たかはち ちゅうしゃじょう くるま お  
高鉢の駐車場で車を降ります。



しゅーと、見て見て、白い葉っぱがあるよ。



ほんとだあ、はじめて見た。  
ちょっと引っぱってみようよ。



あらっ、つるだったのね。  
ええっと、お父さんこれはなんだったかしら？



それはね、マタタビというつる植物だよ。  
しゅーとも知ってるよね。



うん！ネコがよるこんでよってくるんだよね。  
ライオンもだよ。



お父さん、これは？  
なんだかおいしそうだけど。



ヤマブドウじゃないかしら？



そうそう、食べてごらん、おいしいだろ？  
口がむらさき色になるけど。



ぼくもめずらしいもの、さがそうっと。  
あったあ！お父さん、お父さん、この丸い実は？



キウイによく似たサルナシの実



おっ、おもしろいものを見つけたね。この仲間はおまえたちも知っているくだものなんだよ。これはサルナシといってね、わってみてごらん。小さいけれど、ほら、キウイにそっくりだろう？キウイは、もともとサルナシを改良してできたんだよ。



ほんと、そっくりね。でもすごすっぱい。

くるま しゅっぱつ おお はやし とお  
 車で出発。大きなカラマツの林を通りすぎて、  
 シラビソやコメツガの針葉樹林帯に入っていきます。



このカラマツをよく見てごらん。いま走っているところは、  
 亜高山帯といわれているところの入り口あたりなんだけど、高さが  
 20mもある大きなカラマツも、常緑針葉樹林といっしょに生えてい  
 るんだ。針葉樹林帯をぬけていくよ。少しずつ木が小さくなっていく  
 のがわかるかな。



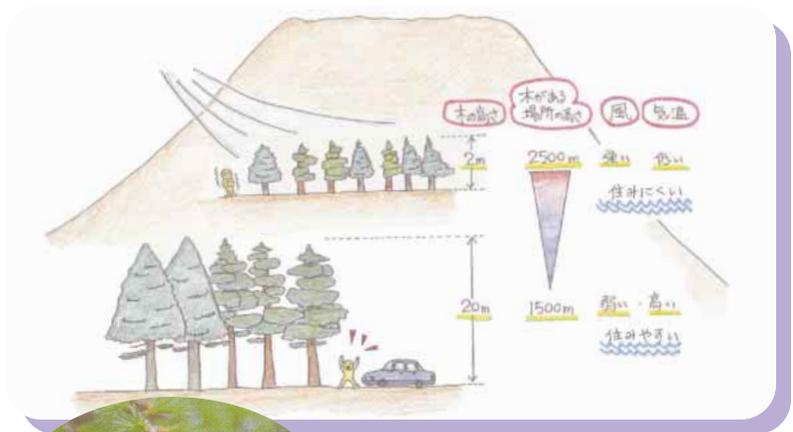
お父さん、どうして山に登るとだんだん木が小さくなるの？



それはね、上に登れば登るほど、気温が低くなるし風も強くなるだろ  
 う。そうすると、木は大きくなることのできないから、森林もできな  
 くなってしまふんだ。そういう場所を「森林限界」というんだ。植物に  
 とってはすごくすみにくい場所なんだよ。富士山の「森林限界」は標高  
 2,500mくらいかな...。  
 さあ、五合目に着いたよ。ここから宝永遊歩道を歩こう。



標高の高いところに生えるカラマツ  
 森林限界の近くでは、木は大きくなることのできない



◀カラマツのマツボックリ  
 小さいマツボックリが上向きにつく



わあ、ちいちゃいマツボックリがあるよ。  
 ここに。あ、そこにも。



たくさん落ちているね。  
 きっと去年が「なり年」だったんだろ。



なりどしてなに？



木の実がたくさんなる年のことだよ。木によって違うけどね。こうい  
 う環境のきびしいところの木は、毎年たくさんの実をつくること  
 ができなくて、何年かに一度、まとめて実がなるようにしているんだ。

針葉樹：マツやスギなど、針のような形をした葉を持つ木。一年中緑の「常緑樹」が多いが、  
 カラマツのように、秋になると葉が落ちるものもある

ちょっとした沢さわに出でました。



ここにきれいなむらさき色の花いろ はなが咲さいているわ。



あっ、それ知しってる！  
ホタルだよ。



これはホタルじゃないよ。



そうじゃなくて、ヤマホタルブクロしょくぶつっていう植物しょくぶつなの。  
むかしはこのお花いにホタルを入いれたのよね。



よく知しっているね。  
ヤマホタルブクロは、こ  
ういこういい小石おおが多おくてざらざら  
した土地とちで、いっしょうけ  
んめい生いきているんだ。フ  
ジハタザオやミヤマオトコ  
ヨモギしょくぶつという植物しょくぶつはもっ  
と岩いわだらけのところでも生い  
きていけるんだ。  
だから、ここより標高ひょうこうがたか  
くて環かん境きょうのきびしいところ  
で、たたくさん見みることがで  
きるよ。



ヤマホタルブクロ

小石おおの多おいところでは  
こんな植物しょくぶつも見みられます



メイゲツソウ



◀ムラサキモメンゾウ



フジハタザオ



ミヤマオトコヨモギ



お父さん、お父さん。根っこがたくさん見えてる植物があるよ。  
どうしちゃったんだろう？



根もとの土がくずれてしまったよね。  
それでも元気に生きているみたいね。



これはね、オンタデというんだ。地面の上にてている部分の大きさの  
わりに、根っこが大きいだろう？ この大きな根を地面にしっかり  
張りめぐらせて、動きやすい小石をおさえるはたらきをしているん  
だ。それに、根にたくさんの栄養をためているんだ。こういうところ  
では、栄養をためることはとてもだいじだからね。



コケモモの花

また森の中へ入りました。



この小さな葉っぱの植物は知ってるかな？  
ヒントは赤くておいしい実がなることだよ。



いちごみたいなの？



はずれ。これは、こんなに背が低くて小さいけど、草じゃなくて木な  
んだよ。葉っぱも一年中ずっとついているから、いつも緑という意味  
で常緑樹というんだ。みんな答えはわからないみたいだね。  
正解は、コケモモでした。



それなら知ってるわ。  
実を乾燥させたものやジャムを売ってるから。



いま、実がなくなって残念だね。お母さん。



さあ、もうすぐ宝永火口に着くよ



コケモモの実▶

森林をぬけると、真っ青な空をバックに富士山の山頂が見えます。  
雲はずっと下のほうにひろがっています。



わあ～、すごい景色！  
こんなのはじめて。

富士山の頂上も、ここから見るとぜんぜん違う景色なのね。  
空の青に映えて、きれいね。



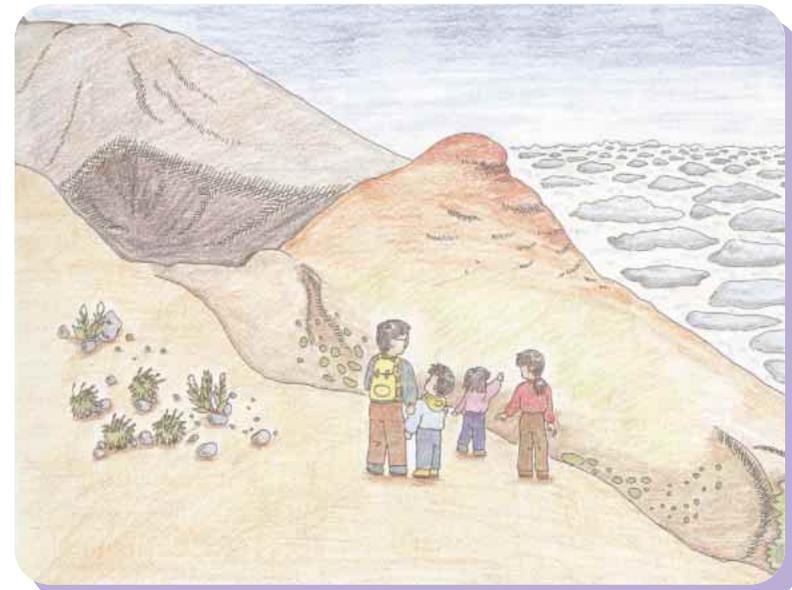
この曇って、雲海っていうんでしょう。ほんとに海みたい。  
雲はゆっくり動いているのね。あの上をずっと歩いて行けそう。



わあっ、すごい穴があるよ。  
お父さん、これが宝永火口なの？



そう、この景色は気に入ってくれたかな？ここが宝永火口だよ。  
いまから300年前に噴火したあとだよ。  
ここからは見えないけど、火口は3つあって、上から第一、第二、第三火口というんだ。いま、しゅーとが見ているのは第二火口だよ。



富士山の三大噴火

名前	おきた年	被害のようす
延暦の噴火	延暦19年 (800年)	火山の砂や小石がたくさんふったため、東海道の一部がうまって通れなくなった。
貞観の大噴火	貞観6年 (864年)	地震といっしょに噴火がおこった。熔岩が湖に流れこんで、家や田畑がどろでうまり、おおぜいの人が死んだ。
宝永の大噴火	宝永4年 (1707年)	熔岩はあまり出なかったが、岩や灰を大量にふきあげた。江戸の町にも灰がふり、昼間でも灰のためにうす暗かったという。

雲海：上から見下ろすと、まるで海のようにひろがって見える雲  
宝永火口：富士山が江戸時代の宝永4年(1707年)に噴火したときにできた火口



か こう なか みどり  
火口の中に緑のかたまりがあちこちにあるね。大きいのも小さいの  
もあるよ。あれはなんなの？



あれはね、イタドリという植物しょくぶつがパッチをつくっているんだ。小さな  
パッチは、時間じかんがたつと大きくなるんだよ。



パッチってなに？



それはね、自分じぶんの子こどもや仲間なかまを、自分のまわりにふやして、みんな  
で寄りそいながら生きていている植物かたちの形のことだよ。



それじゃあ、そのうち、この火口もイタドリでいっぱいになるの？



それが、そうでもないんだ。よく見てごらん。大きなパッチで、真ん中まなか  
が薄うすくなっているのがあるだろう。



真ん中に木きが生はえているのもあるね。



まるでドーナツみたいね。



いいことに気がきがついたね。そのとおり、イタドリのパッチはね、ある  
大きさまで大きくなると、真ん中まなかが枯かれてきてしまうんだ。パッチの  
中は、まわりのなにも生かえていないところくらと比べて、水分すいぶんが多おほかったり、  
風かぜが弱よわかったりして、ずいぶん居心地いごこちのいい場所ばしょになっているから、  
裸地はだちでは生活せいかつできない植物うつたちが、そこに移うつってくるんだよ。



それで、木ぼんが1本ただけ真ん中に立たってたりするんだね。



イタドリのパッチ





さあ、ここに腰かけて、ちょっとひと休みしましょうか。



お母さんっ！  
それ生きている植物だよ！



これはなんていう植物なの？  
これもパッチなの？



これは、上げずられてしまっているけれど、コタヌキランという植物の株だよ。あさみちゃんのいうとおり、これもりっぱなパッチなんだ。イタドリほど大きくはならないけどね。コタヌキランについてひとつ教えてあげよう。コタヌキランはとってもたくさんのたねをつくるんだ。



だったら、どうしてそこらじゅうコタヌキランだらけにならないの？



それはね、ここのきびしい環境とコタヌキラン自身の性質のせいで、たとえ5000個もたねをつくっても、生き残るのは、たった1つだけだからなんだ。



そんな大変な環境を耐えて生きのびたのに、こんなに人に踏まれたりして、かわいそうね。わたしもうっかりしてたわ。  
がんばってね！  
コタヌキラン

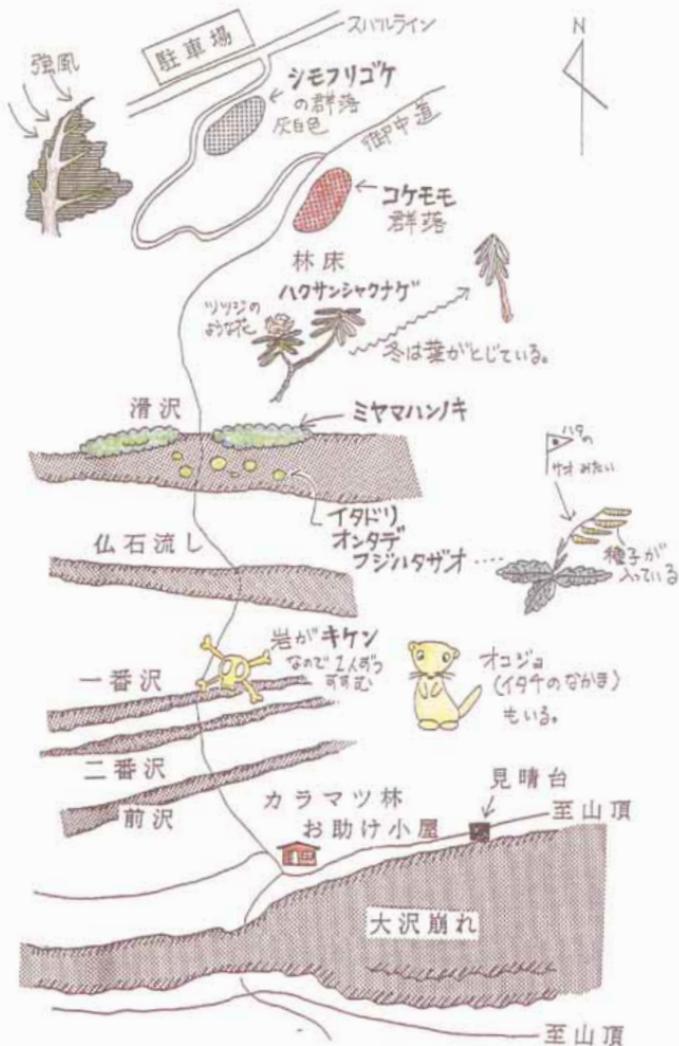
富士山の森林限界付近には、きびしい環境に耐えられる植物がたくさん生活しています。富士登山をするとき、砂がくずれているところや岩の間をよく観察してみましょう。たっくましい、小さな植物を見つけることができます。



コタヌキラン



## 富士山をまわる



にちようび あさ  
日曜日の朝、あさみちゃん一家は、日帰りハイキングの準備をしています。



さあ、今日は富士山をぐるっとひとまわりするぞ。



そんなことできるの？



できる、できる！



あんな大きな富士山を1日でまわれるの？



そうだな。早ければ1時間、いちばん長いコースだと、やっぱり1日じや無理だな。3日くらいかかるかな。



わかった。  
富士山の頂上にある火口をまわれば1時間なんですよ！



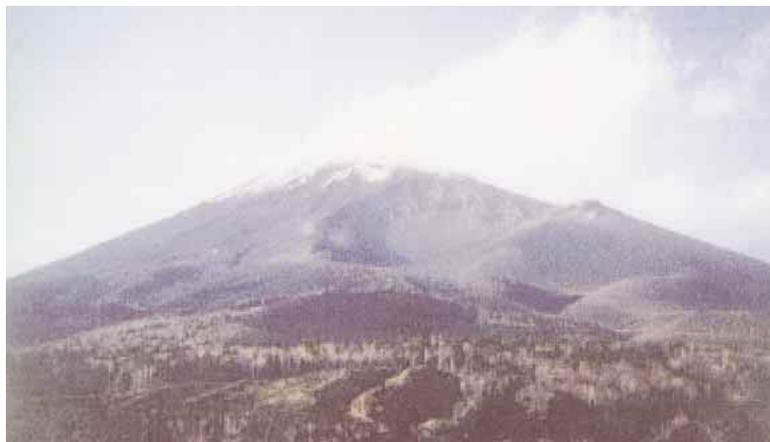
なんだ、そうか。  
じゃあいちばん長くかかるのは、ふもとをまわるのね！



でもお父さん、私は富士山をぐるっとまわるなんでまっぴらよ、  
1時間でまわれるっていても、頂上まで行くのが大変でしょう？  
だからといって車の通るふもとなんかを、ちょこちょこ歩くのもいやだわ。



わかった分かった。でも今日は車も通らない、高山植物も見られる、  
気持ちのいい道を歩くんた。  
ふもとをぐるっとまわるのは無理だろうから、富士山の五合目あたりの5分の1くらいをまわろうか。



みぎてまえ  
右手前に見えるのが宝永火口

あさみちゃん一家は、車で富士宮を出て西へ向かいます。



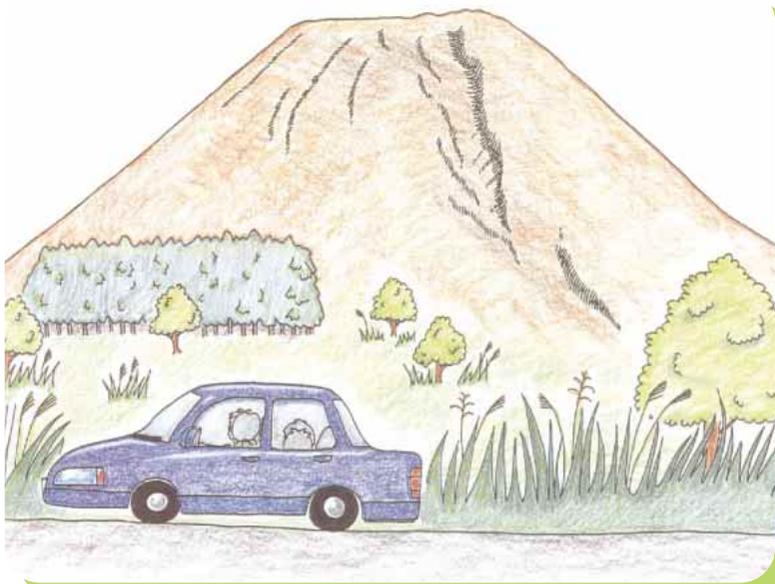
いまから、車で富士山のすそ野を4分の1ほどまわるんだよ。



ずっと山梨の方まで行くんでしょう？  
その途中になにかおもしろいものでもあるの？



富士山のすそ野には、楽しい遊びの施設とか、自然の公園もたくさんあるんだよ。



朝霧高原



そういえば、前に学校のバス旅行で、朝霧高原とか青木ヶ原とか富士五湖なんかに行ったよ。



そろそろ朝霧高原を通るからね。ほら、朝霧高原だ。  
この高原は、ずっとむかしはスキの原っぱだったんだよ。ところどころ開発したから、いまでは牧場になってるけどね。  
こんなに広く続いている草原も、ただ放っておくといずれは森にかわってしまうんだよ。

しばらくして、<sup>あおき がはら</sup>青木ヶ原にさしかかりました。  
<sup>かあ くるま なか はんぶんね</sup>お母さんは車の中で半分寝かかっています。



なんだか、まわりが暗くなったわね。



お母さん、いまね、<sup>もり なか はい</sup>森の中に入ったんだよ。  
この森は、<sup>みどり こ おお き</sup>緑の濃い大きな木がたくさんあって、なんとなく暗いね。



この森は、<sup>ひろ ふか</sup>広くて深から、<sup>あおき がはらじゆかい</sup>青木ヶ原樹海といわれているんだ。  
<sup>せんねん くらゐ まえ なが あさん ふんか</sup>いまから千年くらい前に長尾山が噴火して、その<sup>ようがりゅう</sup>熔岩流の上にできた森なんだよ。ここにおもに生えているのは、ヒノキやツガ、ウラジロモミといった木なんだ。あさみちゃんが暗い森だと思ったのは、これらの木が常緑の針葉樹だからだよ。



<sup>がっこう</sup>学校のバス旅行で来たときには、この森の中へ入ったんだけど、暗くて岩が<sup>いわ</sup>ごつごつしててね、その上には<sup>うえ</sup>コケがいっぱい生えていたの。そのとき<sup>せんせい</sup>先生が、ここは<sup>じしゃく</sup>磁石が使えないんだって言ってたよ。だから中へ入ってまよったら、<sup>で</sup>出られなくなるかもしれないんだって！



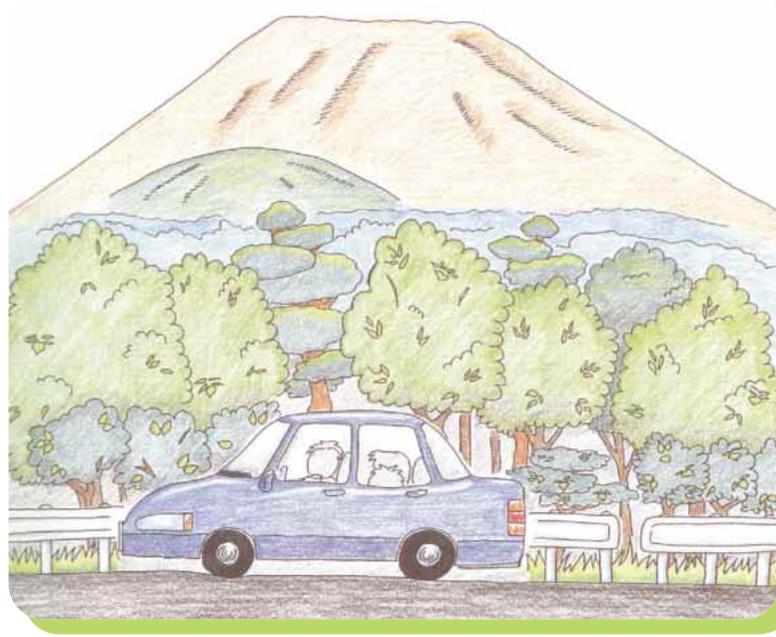
お父さん、この森の中には、たくさん<sup>どうくつ</sup>洞窟があるってほんと？  
洞窟に入りたいな！



ばかなこといわないの。そんなところに入ってどうするの？  
それより早く明るいところに出ましょう。



このまま、まっすぐ進むことにしよう。  
<sup>あおき</sup>青木ヶ原をぬければ、また明るいところに出るからね。  
そうすれば、<sup>しょうじ こ かわくち こ ちが</sup>精進湖や河口湖も近いし、明るい湖も見られるよ。



樹海の中には  
たくさんの洞窟があります



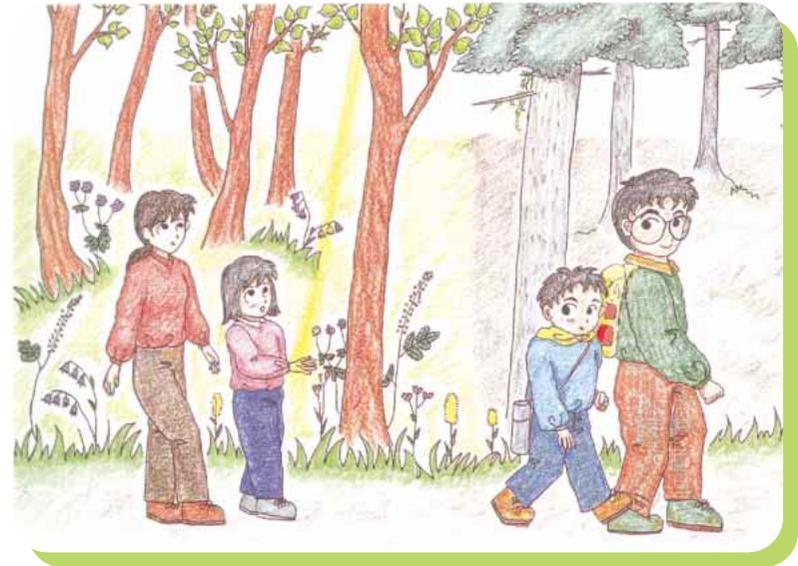
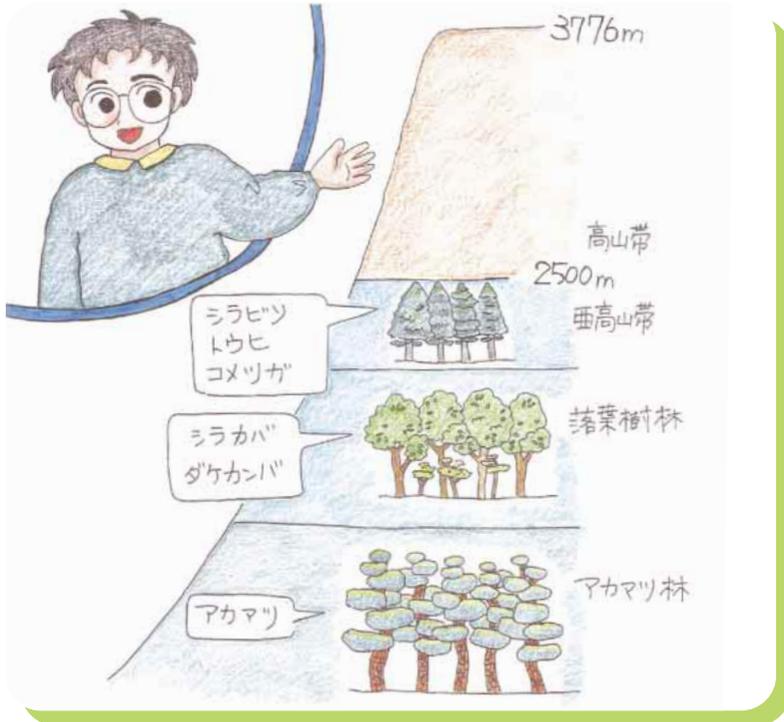
こまかどふうけつ  
駒門風穴  
しずおかけん くてん ばし  
(静岡県御殿場市)

ふ がくふうけつ  
1 富岳風穴  
やまなしけん かんが せき くいしきむら  
(山梨県上九一色村)

くるま  
車はスパルラインの入り口にさしかかります。



さあ、ここから五合目の2,500mの高さまで、いっきに車であがって  
いこう。その途中、最初に木の肌が赤いアカマツの林を通して、シラ  
カバとダケカンバの落葉樹の林をぬけて、もういちど青木ヶ原と同  
じような針葉樹林帯に入っていくよ。でも、そこは亜高山帯といわれ  
る標高の高いところだから、同じ針葉樹林でも、青木ヶ原とは木の種  
類が違うんだよ。シラビソ、トウヒ、コメツガといった木でできた森  
なんだ。さあ、もうすぐ奥庭というところに着くよ。



奥庭の駐車場に着き、そこに車をとめ、富士山をながめます。

森林が手前から富士山の上のほうまでひろがっています。

ここからあさみちゃんの家族は、徒歩で全員リュックと水筒を持って、  
お父さんについて御中道に向かいます。

森林と大小のいくつかの沢と、5つの森林限界をぬけながら、  
御中道を東側に向かって歩きだしました。



さっきまで、森林しんりんの中なかを車くるまでのぼってきたんだけど、いま立たっているところは、森林しんりんからぬけ出だしてきたところなんだ。まわりを見てごらん。いろんな木きが地面じめんをはうように生はえているのがわかるよね。ところどころまっすぐ立たっている木きがあるけれど、その枝えだのつきかたを見てごらん。枝みどりと緑はの葉いつほうっぱが一方いっほうにだけ伸びているのがわかるかな。



ほんとだあ。  
なんだか旗はたみたいだね。



森林限界たかよりも高いところでは草くさしかはえていない



そうだよ。のぼり旗かぜが風かぜになびいているように見えるだろう。こういう形かたちの木きは、見たとおり「旗状樹形はたじょうじゅけい」とよばれていて、いつも強い風つよが吹ふくためにこんな形かたちになるんだ。こんな木きがあるところは、かならず風の強いところだと思っていいんだよ。とくに高山こうざんで、森林しんりんがなくなるあたりを「森林限界しんりんげんかい」というんだけど、そこにはこんな木きがたくさんあるんだよ。これから行く山道い やまみちは、ちょうど森林限界しんりんげんかいのところを通とおったり、林はやしの中なかをぬけたり、沢さわをわたったりしているんだ。



それでお父さん、今日とうはどこまで行くの？



今日は御中道おちゅうどうをぐるっと全部ぜんぶまわるわけではなくて、大沢おおさわという大きな谷おおのところでまで行くんだ。





また林の中に入ったね。  
この林の中って木の幹や枝にたくさん「もしゃもしゃ」が下がってるけど、あれはなに？



これはね、地衣類というんだ。こんな形の地衣類は、すごく湿ったところに出てくるんだ。コケも同じでね、ほら見てごらん、木の幹や岩肌にもたくさんコケがついているだろう。  
このようにコケ類や地衣類がたくさん出ている場所はとても湿気が多いということなんだ。



今日は晴れてるけど、もし晴れてなかったらすごい霧なんでしょうね。



お父さん、ここにはどうして、このくらいの小さな木が多いの？



ここはこんなに暗いから、いつか光があたって大きくなれるのをじっと待っているんだよ。



こんなところに大きなツツジが咲いてるよ。  
みんな見て見て！



それは低地のツツジじゃないよ。ハクサンシャクナゲといって高山で見られるシャクナゲなんだ。葉っぱをよく見てごらん。ぴかぴか光って厚いだろう。これは、クチクラというロウソクのろうのようなものが表面についているからなんだ。このクチクラ層は、植物を寒さや乾燥から守っているんだよ。



ハクサンシャクナゲ

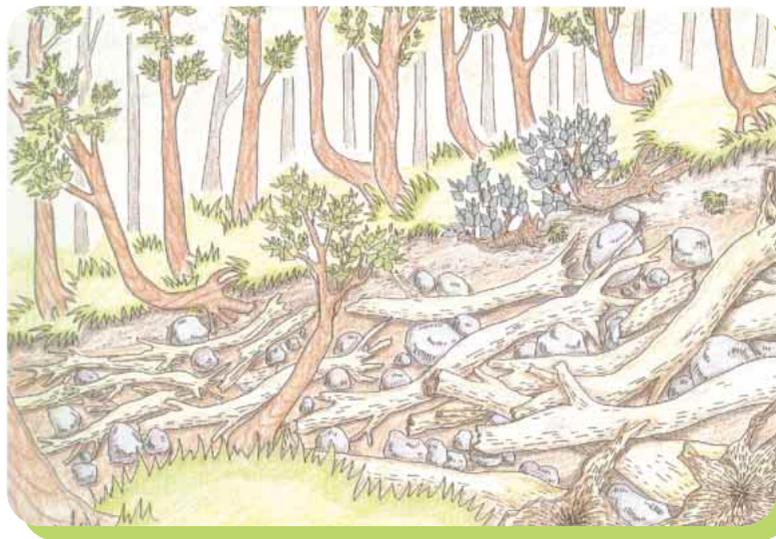
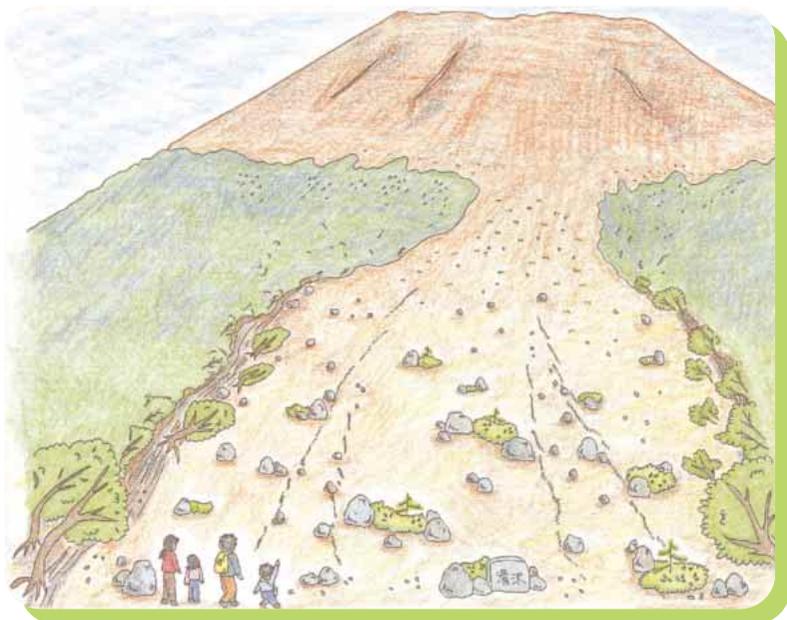
かぞく さいしょ おお さわ なめさわ  
家族は、最初の大きな沢の、滑沢にでました。



わー！急に明るくなった。  
でも上から岩がくずれ落ちてきそうな、こわいところだね。



こんなところをわたるの？



だいじょうぶだよ。ここはね、冬や春に起きる雪崩のために、植物が大きくなれない場所なんだよ。だけどよく見てごらん。岩の間にたくさん小さな植物が生活しているだろう。それから、沢のふちには寝ているような木がたくさんあるよね。あれは、雪崩に倒されたせいなんだ。



倒れた木は死んじゃうの？



そうだね。たいていの植物は、雪崩にあうと死んだり流されたりしてしまうけれど、いま見えている植物、ミヤマハンノキやダケカンバなどは、倒されても力強く起きあがって生きる、雪崩に強い植物だと思っていいよ。

はやし はい に ばんざわ  
また林に入り、二番沢にさしかかりました。



さわ みず  
沢っていても、水はぜんぜんないんだね。



そうだね。ふじさん 沢は、ふだんは水が流れていないけど、おおあめ ふ  
ったり、雪どけのころには水が流れることがあるんだ。二番沢も、め  
ったに水は流れてこないんだけど、実はあるとき滝が現れることが  
あるんだ。



雨で現われた<sup>まぼろし</sup>幻の滝



へえ、こんなところに？  
どうして？



それはね、雪どけのころ、一度に水が流れ出すことがあって、それがち  
ょうどこの上の岩のところから落ちるんだ。それが滝になることがあ  
るんだよ。めったに見られないけれど、それを見た人がいるんだよ。



それでここを「幻の滝」とよんでいるのね。

まえさわ とお ふ じ さん やまご や たす む  
前沢を通して、富士山の山小屋のひとつ「お助け小屋」に向かいます。  
はやし した こうざんしよくぶつ き  
林の下にはたくさんの高山植物が咲いています。



もうすぐ大沢に着くよ。いまいる林にある木は、大きくて背が高いから、その下にたくさんの植物が生活できるんだよ。



ずいぶんきれいな花がいっぱいね。  
これが高山のお花畑なの？



ちがうちがう、お母さん。高山のお花畑は、森林限界より上にあるのよ。ね、お父さん。ここには大きな木の下で生きていける植物があるんだよ。



そう。この林は、そんなに急な坂ではなくて、少し平地になっているだろう。こんなところは雪がたまりやすいんだ、そして、初夏になっても雪が残っていて、それが少しずつとけるから、いつも湿っているんだよ。だからここには、たくさんの植物が生活できるんだ。



あの白いイヌのしっぽみたいな植物はなに？



あれはサラシナショウマというんだよ。それから、地面にぴったりとくっついたようなものには、カニのこうらのような形をしたカニコウモリ、それからコウモリソウもあるね。むらさき色の花は、ゲンナイフウロとトリカブト、小さくて白いツルが舞っているような花は、マイヅルソウだよ。



植物の名前って、どうやってつけたのかしら、いままで聞いていたら、ハタザオとかトリカブトとか、マイヅルソウとか、その植物がなにかに似ているということで名前をつけたみたいね。



サラシナショウマ



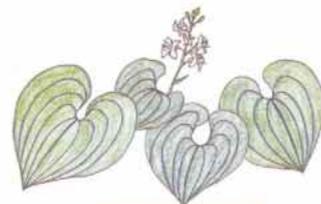
カニコウモリ



コウモリソウ



トリカブト



マイヅルソウ



ゲンナイフウロ



ほんとだ。カニコウモリの葉はカニのこうらに見えるね。



それなら、ゲンナイフウロやサラシナショウマは？



それには困ったね。たしかにお母さんのいうように、なにかに似ているということから名前をつけたものも多いよ。だけど、ゲンナイやサラシナは、その植物が多い場所や地域の名前だね。こんなふうには、生えている土地の名をつけた植物も多いんだね。

おおさわ たす ごや つ  
大沢の「お助け小屋」に着きました。



とう  
お父さん、あんなところに小屋があるよ。



やす  
さあ、ここで休もうか。



すこ  
いや、休みは少しあとにして、もうちょっと先に行ってみよう。  
この先は危険だから、お父さんが先に行ってみるからね。  
ついてきなさい。



め まえ いき おおさわくず けいかん あらわ  
目の前に、息をのむような大沢崩れの景観が現れました。



み はら だい  
ここは見晴し台といって、はげしくくずれている大沢を見ることが  
できるんだ。



わ~すごい! こんなに大きな谷はじめて見た。すごくこわそうな  
ところね。ほら、いまもあんな大きな石がくずれてきてるよ。



ちようじよう つづ  
このくずれは、頂上のほうまで続いているのね。  
あのガラガラはくずれている音かしら。



さわ いちねんじゆう はる ゆき  
そうだよ。この大きな沢は、一年中くずれているんだ。とくに春の雪  
だけのころは、はげしくくずれるらしいよ。それが雪どけ水や雨とい  
っしょになると、土石流となって災害を起こすこともあるんだ。



とう ふじさん  
そうするとお父さん、富士山はいつかくずれてなくなってしまうの?



そんなのいやよね。どうして、こんなことになってしまうのかしら。



ここに来るまでに、いくつか沢を見たよね。富士山の沢は、大きくて  
も小さくても、どこでも少しずつくずれているんだよ。だから、いつ  
かは富士山も低くなってしまいうだろうけど、それは遠い遠い先の  
ことだろうね。正面のくずれている面をよく見てごらん。



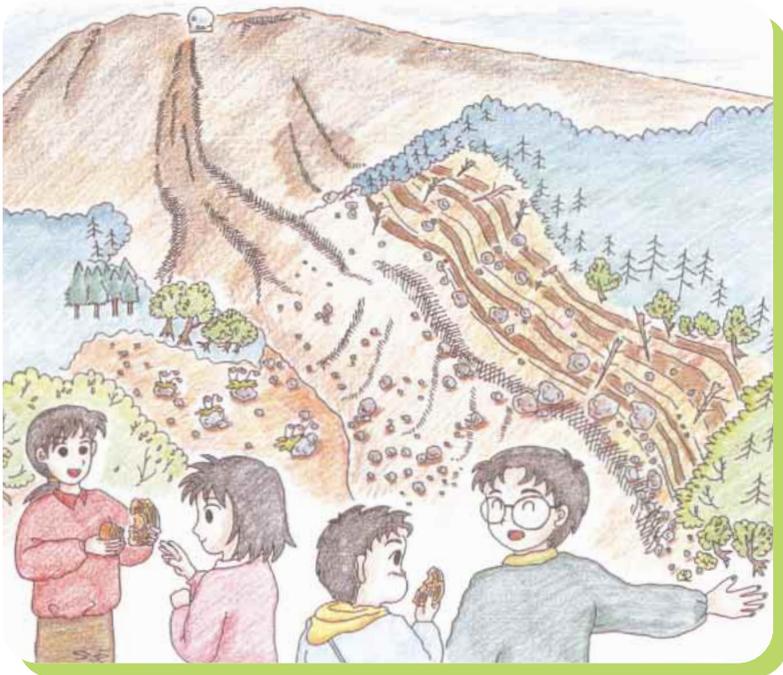
あの面は、なにか食べ物に似てるね。違う色の層が何段にも積み重なったように見えるよ。baumクーヘンみたい。



そういえば、おやつに持ってきたのよ。baumクーヘン。



富士山ができるときに、噴火によって固い熔岩が流れたり、やわらかい火山れきが吹き出したりして、このお菓子のようになっただ。これが、大沢がくずれやすい原因なんだよ。



大沢崩れ(富士山の真ん中に見えるわれ目)  
崩れた石や土は土石流となって下流に運ばれる



おおさわがわ  
大沢川の土石流(1972年)

土石流：水といっしょに、大きな石や泥が混じり合っ流れてくること。



とう お父さん、そのくずれている<sup>めん</sup>面にきれいな花<sup>はな</sup>が咲<sup>さ</sup>いているけど、あれはななに？



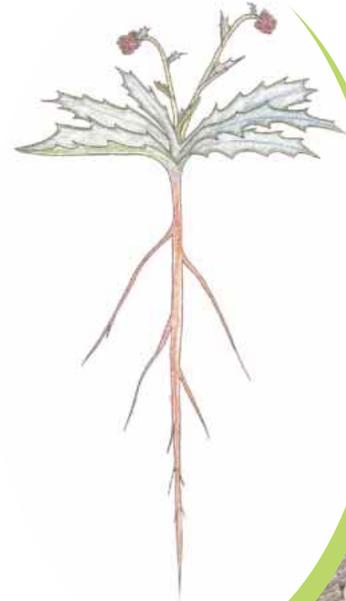
あれは、一度<sup>いちど</sup>地面<sup>じめん</sup>がくずれて、それがとまった場所<sup>ばしょ</sup>に出てくる植物<sup>しょくぶつ</sup>なんだ。こういうところで生活<sup>せいかつ</sup>できる植物<sup>しょくぶつ</sup>には、フジアザミ、フジハタザオ、ミヤマオトコヨモギ、タカネピランジなどがあるよ。あの大きな花<sup>おほ</sup>はフジアザミ<sup>おほ</sup>といって、長い根<sup>なが</sup>を地下<sup>ね</sup>に打ち込む<sup>ちか</sup>ようにして生活<sup>く</sup>しているんだ。土<sup>つち</sup>がくずれるのをとめるのに、一役<sup>ひとやく</sup>かっているんだよ。



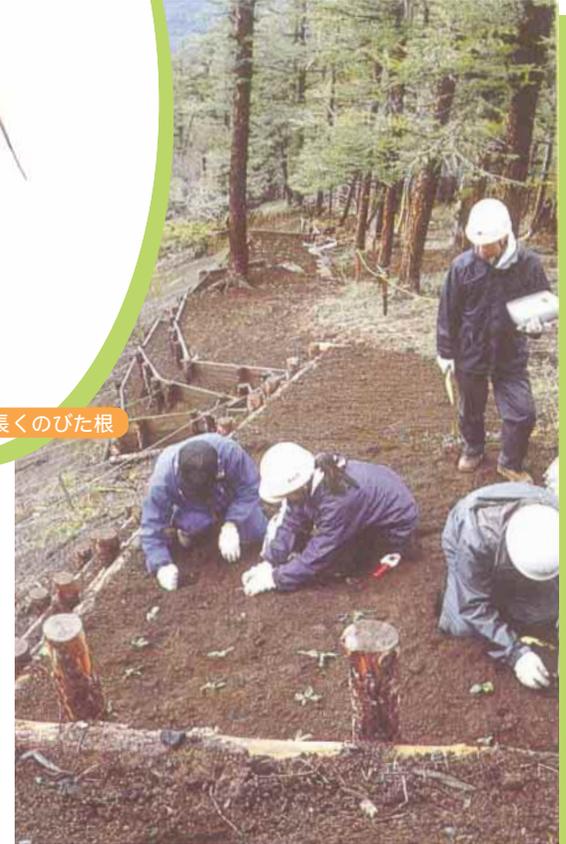
フジハタザオ



ミヤマオトコヨモギ



フジアザミと地下に長くのびた根



フジアザミの苗<sup>なえ</sup>を大沢<sup>おおさわ</sup>に植<sup>う</sup>える  
地下<sup>あか</sup>に深く根<sup>ね</sup>をのばす性質<sup>せいしつ</sup>を利用して大沢<sup>おおさわ</sup>では土砂<sup>どし</sup>がくずれるのをふせぐためにフジアザミを植<sup>う</sup>えている



さあ、このあたりでお昼にしましょ。あそこになにか鳥がいるわ。  
しゅーと、見てごらん。あれはなんていう鳥なの？



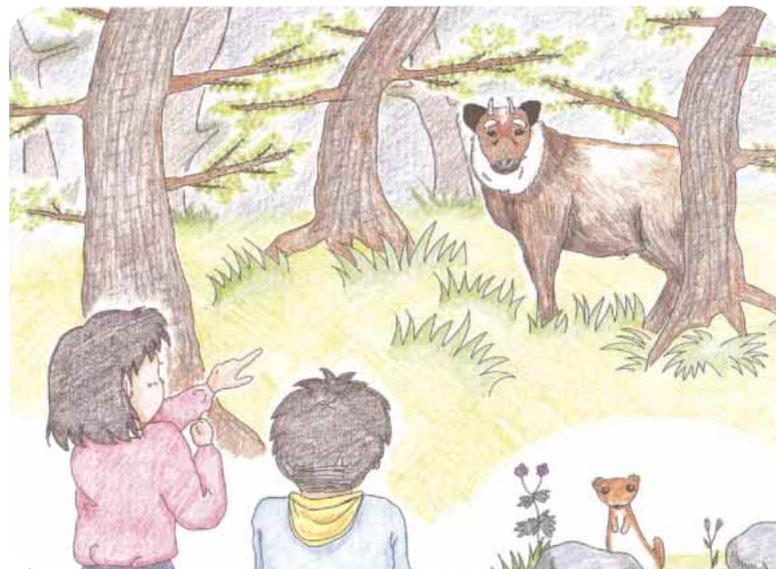
あれはね、えーっと、ホシガラスだよ。



こんなところで、ホシガラスはなにを食べているのかしら。きっと木の  
実かなにかね。高山では食べ物は少ししかないから、きっとおなか  
をすかせているんでしょうね。でも人間が食べ物を与えたら、かえっ  
て鳥たちには悪いのよね。



かえ みち  
帰り道にさしかかりました。



オコジョ



あっ、オコジョだ！  
わあ、かわいい。小さいイタチみたいだね。  
あんな岩の上をぴょんぴょん走っているよ。



おっと、カモシカまで出てきたよ。  
こっちをじっと見てるね。



おどかさないように、そうっと行こうね。  
富士山には、ほんと、いろんな生きものがいろんな場所でうまく生活  
しているのね。



もり ちい しょくぶつ どうぶつ さき い  
森も小さな植物も動物も、みんな支えあって生きているんだ。このよ  
うな関係は『生態系』といって、みんなも大切に守らなければいけな  
いものなんだよ。

おくにわ  
奥庭にもどったあさみちゃんたちが、  
みんなで富士山を振り返ると、  
いままさに、  
しよくぼうつ  
植物がリュックを背負って  
のぼ  
富士山を登っていこうとしていました。



## 富士山を知ろう

監 修 / 増沢 武弘

絵と文 / 杉山 総子、美里 直美

平成11年3月発行

企画・製作 /

**建設省中部地方建設局富士砂防工事事務所**

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

☎0544-27-5221 ~ 2

編 集 / 砂防広報センター



アマツバメくん

建設省富士砂防工事事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

電話：0544-27-5221 ~ 2